



みさかえの園だより

第26号 2020年 7 月

発行所

社会福祉法人 聖家族会

発行責任者 西村和子

編集 広報委員会

☎859-0167長崎県諫早市

小長井町遠竹2727-3

☎0957-34-4520

FAX 0957-34-4521

〔年2回発行〕

新型コロナウイルス感染症に思う

社会福祉法人

聖家族会

理事長

西村 和子

昨年の終り頃から、新型コロナウイルス感染症の問題が少しずつニュースに出るようになりました。たいへんなことが起こり始めたと感じましたが、これほど大々的に世界中を覆うことになるとは考えることができませんでした。

政府の「緊急事態宣言」が4月8日から5月の連休まで出され、その後解除されましたが、今なお予断を許さない状況です。

迫害時代でもないのにカトリック教会や修道院では聖週間・復活祭の大切な時期に会衆と共にミサが捧げられない。医療の崩壊、経済の崩壊が起き、葬儀もできない、死者を葬

ることさえできない事態になりました。まるでウイルスとの世界大戦が始まったかのようです。ウイルスは人種、宗教、国、身分など関係なく入り込んで行きます。しかも生きた人間の細胞を使って増殖するという、体の中からの攻撃です。

ひとつのチームとして

みさかえの園の利用者の皆さまは、障がいを持ち、体力的にもウイルスに対する抵抗力がありません。その上高齢の方もいます。もし新型コロナウイルス感染症が発生したら集団感染になること間違いなしです。抵抗力がないので死の危険性もありま

す。どの施設もスタッフはみんな緊張しウイルスが入ってこないようにひとつのチームとしてできる限りの対策を施してきました。

施設では面会禁止、外来患者の診察や通園も一時的に中止し、外部から持ちこまないように細心の注意をしていました。職員はそれぞれの家庭から来ます、家族の誰かが陽性になればすぐに施設にもウイルスが入ってくる可能性は十分あります。ですから職員の家族の皆さまも協力してください。感謝申し上げます。

これらの対策は段階的に解除の方向に向かっていますが、今後も職員の皆さん一人ひとりが自覚を持って、感染対策にも配慮した「新しい生活様式」を確立していただければと思います。

傷をいやし、和解とゆるしの道をつねに差し出す準備のある、野戦病院となること

これは教皇フランシスコの2019年11月25日、東京ドームでのミサでの言葉です。

今回のコロナウイルスは交通網の発達によりとても速いスピードで世界中に広まりました。まるでひとつの国の中の出来事のようにニュース

が流れてきました。癒し・和解などもなく死んでいく、本当に野戦病院のようになっていきます。今、元気に祈れる人が祈りをささげることの必要性を感じています。

もしかして私にもかかるのではないかと、あの人が持っているかもしれない、という疑いの心が起こったりします。不安な状況の中にありながらも、ウイルスに負けずに今を生きたいものです。始まりのあるものは必ず終りが来ます。治療薬も開発されようとしています。

この世界全体に起こっている同じ問題を地球家族としてひとつになつて考え、助け合っていく世界になれば、この苦しみも大きな善に変わっていくでしょう。

ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）を保つ、三密を避けるなどありますが、すぐに元に戻るのかなどありますが、新型コロナウイルス感染症が終息した時に、何か新しい未来が開けることを願っています。

「私は、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」（ヨシュア記 1章9節）

「利用者様の暮らしをずっと守る」

～新型コロナウイルス禍の中で～

第二めぐみの家

サービス管理責任者 藤江 智志

今年3月下旬、千葉県内の当施設と同種の施設で集団感染（クラスター）が発生した。その頃、当施設では、施設を訪れる外部者やご家族様の面会自粛をお願いしたが、まだ対岸の火事の心持ちであったかもしれない。

国の緊急事態宣言の対象地域が全国となる中、ひと月後の4月17日には、冒頭の千葉県の施設で「知的障害などのある入所者70人、職員67人のうち計121名の感染者が確認された。」との報道があり、大きな衝撃を受けた。

一方、長崎県内でも単発的に各地で感染者が出現し、17例目を数え、さらに長崎市に停泊中の大型クルーズ船で感染が発覚するという事態に、私たちにもいよいよ身近な危機がそこまで迫ってきていると感じた。

（感染対策に着手）

4月23日、当施設でも本格的に感染予防対策の取り組みを始めた。

その対策として、利用者様の日々の暮らしの中に「感染を施設に持ち込まない」を目標として、職員一丸となつての予防対策を講じることになった。

なった。

当施設は、利用者様の生活支援（居住）は2つのユニットに構成され、また日中活動は、そのユニットの枠を超え、利用者様の特性や能力にあった4つの活動グループに分かれて行っている。そして、その体制を支える支援職員は、通常、双方を掛け持ちで担っている。

そこで感染対策は、「三密」の回避を柱に、そうした居住・活動の両面で、人・空間の混在をなくすこと（プレ・ゾーニング化）から始めた。たとえば、食堂など共有スペースでは、全ての人が一つの場所で交わらないよう、ユニットごとに交替制としたり、夜勤もなるだけユニット別に支援する体制をとった。また日々の日中活動も同様に、各居住ユニット内での代替活動を展開した。

同時に職員の管理面でも出勤時の検温や手指消毒の徹底、プライベートでの不要不急の外出の自粛、研修などの見送り、また頻回の換気、施設設備の消毒の徹底を心がけた。

（利用者様の様子）

その間、利用者様の中には運動量が不足したり、また生活面でもユニットが違つたために顔を合わせる機会がなくなつたりした。ある日、ある利用者様の「○○さん、どうしよつとね。（元気ね？）」などの言葉には

ハッとさせられた。つまり、これら全てが利用者様にとっては大きな環境変化であり、ストレスも含めて、何らか健康に影響してはいないか心配された。

（これからの暮らしをずっと守る）

そして現在、5月25日の国の緊急事態宣言全面解除を受け、6月1日からは職員管理面は継続しながらもいったん、生活・活動支援は従来に戻し、面会や外出は簡易なロードマップに従つて、段階的な解除を開始した。

しかし、ひとたび施設内感染に至つた場合（第二波も含め）、さらにこれまで以上の厳しい予防対策や感染対策を講じなくてはならない。これから完全終息まで、ご家族様等のご健康を祈りつつ、今後、社会で求められる「新しい生活様式の展開」同様に、利用者様の暮らしをどう守り続けるか、その入口に立つたところである。

（記 令和2年6月2日）



久しぶりの面会に
笑顔の皆さん

「利用者様に支えられながら」

生活支援員 田川 幸代

昨年、法人内の「あゆみの家」から「第二めぐみの家」に異動になり、勤務させていただいています。異動直後は業務に慣れず、毎日、緊張が続く中、何より利用者様に自分が受入れてもらえるか、たいへん不安でした。

ある日、退勤時にある利用者様が私の名前を呼び「明日（勤務）は？」と言葉を掛けてくださった時は、とても嬉しく、温かな気持ちになりました。

それから一年、利用者様と関りながら自身の支援に一喜一憂しつつ、利用者様の日中活動や余暇活動、行事、地域の方とのふれあい交流などを楽しむ姿や、また文字書きや折り紙を折る方と一緒に、活動の準備を手伝っていただきながら制作等を楽しんでいます。



今、こうして少しずつですが利用者様のこと知り、私もまた、利用者様に「笑顔で人生楽しく送っていただきたい」と願い、過しています。利用者様の笑顔が私を癒し、私を支えてくださっています。

みさかえの園のぞみの家

副施設長・事務長 田中 伸一

みの家は、令和2年
4月から田縁久廣施
設長を新しく迎え



田中副施設長



田縁施設長

（私も含めて）、新体制で運営していくこととなりました。

私は福祉施設の経験が短いですが、利用者様の力になれるように頑張っ
て行きたいと思っていますので、ど
うぞよろしくお願いします。

のぞみの家は入所されている利用者様のほとんどが女性ということもあり、職員も女性が多くを占めています。利用者様は我々男性2人が来たことが珍しいのか興味を示してくれ、名前を呼んでくれたり、笑顔で手を振って握手をしに来てくれたりとスキンシップを取ってくれるので、非常に嬉しく思っています。

今回、新型コロナウイルス感染症により5月の面会が中止になるなど、いろいろな面で影響が出ています。活動に関しても制限がかかっていま



すが、「三密」をできるだけ避けるように工夫してドライブに行ったり園内で行事をやったりと利用者様が楽しく生活できるように努力しています。6月は利用者様と一緒に避難訓練も行いました。初めて参加しましたが、皆さん真剣に取り組んで機敏に行動していたので、非常に驚きました。

まだ、新型コロナウイルス感染症は終息とはなりませんが、利用者様が安心して生活できるよう対応していきます。

したが、皆さん真剣に取り組んで機敏に行動していたので、非常に驚きました。

まだ、新型コロナウイルス感染症は終息とはなりませんが、利用者様が安心して生活できるよう対応していきたいと思います。

みさかえの園のぞみの家

生活支援員 松山あかり

私が、のぞみの家に就職して今年で三年目になりました。初めの頃は、何をするにも戸惑うことが多く、分らないことばかりでしたが、先輩方に一つひとつ丁寧に教えていただき、今では一人でできることも増えました。

日々の支援を通じて、利用者様の障がい特性をきちんと理解した上で支援を行うことは難しいと感じることもあります。ですが、安心して生活していただけるよう職員一同で情報を共有してその都度対応しています。

のぞみの家で生活支援員として働く中で多くのことを学び、利用者様との会話でいつも元気をもらっています。今後、寄り添った支援を常に心がけ、元気を与えられるような存在となれるよう努力を続けていきたいと思っています。



心と心の キャッチボール



みさかえの園児童発達支援センター

保育士 原口 砂織

「朝のあいさつのリーダーをしてくれる人〜」のかけ声で始まる児童発達支援センターの1日。「はい！」と元気に返事をする人、「んー」と声を出す人、足を高く上げる人、腕をゆっくりと上げたり、激しく揺らしたり：それぞれのやり方でアピールをしています。「自己表現がたくさん見られて嬉しいね。」と話しています。

理学療法士を含めた多職種の職員でケースカンファレンスを行い、それぞれが色々なアイデアを出し合い支援を行っています。利用者一人ひとりの思いや自己表現に気づき、心と心のキャッチボールで信頼関係を結んでいます。

今回はその日常の様子を2点紹介します。

〜キャリーコロコでの散歩デート〜

キャリーコロコとは、普段使っている車椅子や座位保持装置を、簡易の電動車イスにすることが可能な電動移動支援機器です。

普段は押してもらいう車椅子だけど、手足を頑張って動かし、スイッチ操作ひとつで自らが運転を楽しめるようになりました。幼いころから利用されていた方もすっかり大人になられ、「仲良しの友達とデートしてもいい年頃だよ。」と職員との会話の中で、男性利用者からの「じゃあ、僕がリードしたい。」と言う思いが

伝わってきました。その自信から、お友達を誘い、キャリーコロコを使つての念願の散歩デートに繋がりました。

〜会えない友達へビデオレター〜

4月3日、新型コロナウイルス感染予防対策で休業となり、4月20日からは少ない人数での利用再開となりました。いつも会っていた友達とも会えず、寂しそうな様子も見受けられました。そこで、「ビデオレターで思いを伝えよう！」と提案し、「会えなくてさみしいけど、元気だよ！」とお互いの様子とメッセージを伝え合いました。ビデオレターから流れる友達の映像と声を聞くと受け取った方は「うふふ。」と嬉しさがあふれていました。

新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていく中ではありますが、日常でのちよっとした一コマのやり取りの中で、利用者の気持ちを引き出し分かち合う事ができています。そして、いろんなアイデアを元に一緒に話しをして考え、達成した時の喜びを共感しました。

「心と心のキャッチボール！」一人ひとりの自己表現を大切に、今日も期待と喜びに満ちた一日になりました。



親子通園の大切さを 感じた日々



諫早こどもデイサービスわくわく広場
児童発達支援管理責任者 北村 明子

わくわく広場は、発達が気になる子が親子で通い療育を受ける場所です。今年度は、思いもしない新型コロナウイルス感染のパンデミックに始まり、大変なスタートとなりました。毎日の報道で感染者の拡大を見聞きすると、不安感が膨れ上がりました。わくわく広場でも感染対策に苦慮しました。近隣で新型コロナウイルス感染が報告されたので、まずは2週間の休業を実施し、その後は、密の空間を避けるために、親子通園を子どもだけの単独療育に変更しました。環境の変化に対応できにくい子どもが多いので、できるだけ不安感を取り除くように、私たちも配慮しながら療育を行いました。最初は泣いてしまう子もいましたが、私達が普段にも増して、じつくりと関わり、不安な子どもの気持ちに寄り添うように努めました。時間の経過とともに、「自分でがんばろう」と、自律する姿が見えてきました。親と離れることで、通っている保育園や幼稚園での過ごし方を垣間見ることができました。この点は大きな収穫だったと思います。療育が終わり、保護者が迎えに来られたときには、満面の笑みを浮かべて親の元に走り寄ります。子どもたちは、がんばって過ごしたことを親に褒められ、達成感と満足感で満たされる様子でした。

通常、保護者とは活動後に振り返りの時間を設け、子育ての悩みあるいは子どもの変化や成長を共有し、支援の仕方を検討するようにしています。しかし、新型コロナウイルス感染予防の為に、面談を中止して、連絡帳で情報交換を行ないました。送迎の際に、悩みを聴いてほしいと、声を掛けてこられる方には、電話対応を行いました。保護者はスタッフと面談することで安心感が得られ、悩みを共有し共感を得たいのだと思いました。今回の単独通園を通じて、子どもたちの普段見られない姿が見られ収穫もありましたが、それにも増して親子通園の大切さを改めて実感しました。わくわく広場で、子どもたちの成長と一緒に共有すること、保護者も安心することができるとのだと再確認できました。

6月からは感染予防対策を徹底し、親子通園を再開しました。子どもたちは安心して療育に集中でき、保護者は成長する姿を見ることができて共感できます。現在のわくわく広場は笑顔が満ちています。今回の特別な対応期間で、普段見ることができない子どもの姿を見ることができ、あるいは保護者の求めている共感について再確認することができました。この学びを大切にして、スキルを高め、チーム力を強固にし、笑顔でがんばりたいと思います。



サテライトセンター活動企画委員会の活動について

スマイルサポート 相談支援専門員 田中 揚子

みさかえの園サテライトセンターは相談支援事業所「スマイルサポート」、生活介護事業所「デイスぺーアあん」、グループホーム「りん」で構成されています。センター内には、多目的室や地域交流室も広く地域に開放しています。

サテライトセンターには地域交流、地域貢献を目的としたイベントを企画するために「活動企画委員会」があります。委員会では毎月1回、各事業所の代表者とデイスぺーアあんの利用者様2名が参加して色々な案を出しあってイベントを考えています。これまでに高来町名水まつりへの参加、わくわくふれあいフェスタ、わくわくふれあいマーケット、夏休みこども教室など地域の方との交流を積極的に計画してきました。

今年は、コロナウイルスの感染予防のため様々なイベントの自粛を余儀なくされる中、グループホーム「りん」利用者様も家族が待つ自宅への

帰省を控えていただくこととなりました。そこでゴールデンウィークに帰省や外出ができずに残念がる利用者様のためにお楽しみ企画を計画し、三密を避けた対応を各事業所のサビ管と共に考えました。

サテライトセンター全職員で力をあわせ、ビューティサロン（衣装コーナーやネイルなど）やピザ作り、ガーデニング、ウォーキングなどを行ない、利用者様と笑顔あふれる楽しいウィークを過ごすことができました。こうした機会を通して、それぞれの事業所の業務を知るきっかけ作りともなりました。また、普段関わることのない利用者様との交流で、「こんな一面があるんだ」という発見にも繋がりました。利用者様も色々な職員との交流や企画で大喜び！「楽しかった」、「また、したい」との声があがりました。最終日には、ご家族へ向けた利用者様のお

手紙と一緒に活動中の写真を送付し、ご家族様にも利用者様の元気な姿をお見せすることができました。世界は大変な状況ですが、何かあったときにはお互いに協力できる体制作りをサテライトセンター全体で考えていければと思っています。そして、地域の人との繋がりを深められるような企画をみんなで考えていきたいと思っています。



今年度の活動企画委員会メンバー



高来町名水まつり



地域のいきいきサロンとの交流



夏休みこども教室のようす

コロナ禍のあゆみの家

みさかえの園あゆみの家

施設長 平松公三郎

二〇二〇年は世界中が新型コロナウイルス感染症への対応に明け暮れる年となっています。あゆみの家では、新型コロナウイルスを病棟に持ち込まないことを一番の使命として、世の中の動きに十日から十四日ほどのタイムラグを置いて流行状況に合わせてステージを切り取り組んでいます。今は、制限解除下で県内発生がゼロになっていますが、どこかで新型コロナウイルスは息を潜めて感染の機会を狙っています。集団免疫がつくまでは油断はできません。これから、職員の一人ひとりが手指消毒の徹底、マスクの適切な着用、三密（密閉、密集、密接）を避けての日常の行動を忘れないことに専念していきます。

ところで、このコロナ禍の中で、人々ひととの距離をいかに取ればよいのか、距離を取りながらの人とのつながりをどうしたらよいのか、これからの社会生活の中での大きな課題です。新型コロナウイルスによってもたらされたものは、医療や経済の大打撃だけでなく、距離を取ることでのコミュニケーションの在り方にも大きな変革を迫っているように思います。これからは、オンラインで密な関係を築く「オンライン」と密接な関係をもて限られた人との「近密」を使い合わせることで社会をつくることになるのではないかと考えています。療育の最終目標はコミュニケーションの獲得にあります。これから私たちの支援を考へる時、感染への対策がきちんととれて密接な関係を許される支援者になり、その人と「近密」したコミュニケーションがとれ、さらに「オンライン」を使ってその人の社会との関係性を広げる援助をすることが大切になると思います。保護者の方とのオンライン面会などもまさにそうだと思います。感染への心がけとともに、「オンライン」と「近密」での療育の在り方をみんなで考えていきたいと思っています。

こんな時こそみんな笑顔で

療育サービス支援科長 秋吉 牧子

「緊急事態宣言」が全国解除となり、新型コロナウイルス感染症第一波はようやく落ち着きました。とは言え、日本各地で第二波を予感させる情報が流れ、おどろきはつきません。長崎県では一か月以上感染者は出ていませんが、私達の生活は大きく変わり今も我慢の日々は続いています。

入所利用の皆さんのステイホーム率は一般の人と比べると普段から高いものの、この期間は大好きな家族との面会は勿論、園外活動をはじめとする屋外での活動、病棟間の交流、ボランティアや実習生など外部とのつながりも一切絶たれてしまいました。季節は春。大村公園の桜はとても綺麗でしたが見に行くこともできませんでした。

そんな厳しい環境の中で、利用者様や職員が思わず「ほっこり」したり笑顔になれるように、外に出られなくても季節を感じてもらえるようにと、療育サービス支援科とHAP（アートを通して施設環境をより良くしていくチーム）協同で施設内の装飾を行いました。また、すこしでも気分転換になればと、人気のない場所を探してドライブに出かけました。今後は、密閉・密接・密集の三密を避けながら行事や活動を提供するわけですが、病棟は、利用者様と職員を合わせる上、ホールに全員が集まる以前は、ホールは難しいでしょう。再び感染が拡大しないよう予防を徹底し、自分自身も守りつつ、利用者様の生活の質を保ちみんなの笑顔を守る、この大きな課題に全力で取り組みたいと思います。

5月の装飾

5月は行楽の季節。外出できないので小長井のフルーツバス停で懐かしんでもらいました。



▲▼古切手やブーツ型に切った紙のコラージュ

利用者様の作品です



ステンシルのスポンジで色をつけました



6月は傘と雨だれ、そしてカエルの合唱

梅雨の時期も明るく楽しく！



人気のない場所は意外に絶景でした



萱瀬ダム



三城町の川沿いに桜並木が続いています



周りに誰もいなかったので車から降りて外景を眺めたり写真を撮ったり・・・

ワークスペースあん

令和2年度は、コロナウイルス感染に伴う様々な対策から経験したことのない状況下で事業所運営が始まりました。マスク着用、手洗い（アルコール消毒）、検温の徹底に始まり外出の自粛等、利用者さんもテレビやマスコミから情報を得て長崎県内の感染者数を把握しておられました。「バザーに行きたい。買い物に出かけたい。施設外就労に行きたい。」等、制限を強いられる状況が少しずつ長くなり、ストレスが少しずつ溜まって行く様子が伺えました。

幸い私たちの作業場所は、山奥の広大な畑ということもあり通所制限には至りませんでした。イベントの中止でバザー出店が出来ず収益の減収となりました。少しでも収益を上げようとの思いから主力の育苗（野菜苗・花苗）の販売力アップを目指しました。特に花苗は初めての試みとして法人内を中心に注文票を送付し販売をしました。今回は、その内容についてご報告します。

注文実績 1137本（法人内 882本・外部 255本）

花苗注文人気ランキング

1位 ガザニア



2位 マリーゴールド



3位 ジニア



4位 ペチュニア



5位 ジプソフィラ



6位 サルビア



7位 日日草



8位 メランポジウム



花苗の実績として

諫早市と「花いっぱい運動花苗育成・配布業務」について業務委託契約を結んで6年目になります。ワークスペースあんの花苗は、主に小長井、高来、森山の各町に配布され国道沿いの花壇などで目にするのができこの光景は、利用者さんにとっては作業の結果が身近に確認できて喜びと達成感を1度に味わえます。今年度も6月に18,320本を配布しています。

販売所として

飯盛町フレッシュ251
森山町もぎたて市
小長井直売店（漁協）

お近くにいらしたときは、お立ち寄りください。その他乾物類、季節の野菜（玉ねぎ・白菜）も出しています。

寄せ植えアレンジ



・花苗に負けないうらいワークスペースあん全体が笑顔で過ごせますように。

（サービス管理責任者 門脇直子）

令和元年度 決算報告

貸借対照表

令和 2 年 3 月 31 日現在

科 目	金額(千円)
資産の部	
流動資産	2,247,799
固定資産	9,390,792
(基本財産)	4,551,679
(その他の固定資産)	4,839,113
資産の部合計	11,638,590
負債の部	
流動負債	306,208
固定負債	21,347
負債の部合計	327,555
純資産の部	
基本金	690,604
国庫補助金等特別積立金	131,070
その他の積立金	3,296,736
次期繰越活動増減差額	7,192,625
(うち当期活動増減差額)	△376,425
純資産の部合計	11,311,036
負債及び純資産の部合計	11,638,590

事業活動計算書

自 平成31年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	3,996,516
サービス活動費用計	4,165,601
サービス活動増減差額	△169,085
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	22,164
サービス活動外費用計	410
サービス活動外増減差額	21,754
経常増減差額	△147,331
特別増減の部	
特別収益計	2,843
特別費用計	231,938
特別増減差額	△229,094
当期活動増減差額	△376,425
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	7,299,050
当期末繰越活動増減差額	6,922,625
積立金取崩額	270,000
積立金積立額	0
次期繰越活動増減差額	7,192,625

資金収支計算書

自 平成31年 4 月 1 日 至 令和 2 年 3 月 31 日

科 目	金額(千円)
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,018,680
事業活動支出計	3,796,530
事業活動資金収支差額	222,150
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	3,693
施設整備等支出計	121,745
施設整備等資金収支差額	△118,052
その他の活動による収支	
その他の活動による収入計	270,720
その他の活動支出計	69,848
その他の活動資金収支差額	200,873
当期資金収支差額合計	304,971
前期末支払資金残高	1,819,442
当期末支払資金残高	2,124,413

・端数処理の関係上、合計額と一致しない場合があります。

令和元年度 苦情解決委員会報告

- 苦情解決委員会・第三者委員に報告すべき苦情はありませんでした。
- 意見・要望について以下のようなものが寄せられ、各施設・事業所にて対応しました。

分 類	件数
① ケアの内容に関わる事項	3
② 個人のニーズ（嗜好・選択）に関わる事項	1
③ 環境・設備に関わる事項	2
④ 事務に関わる事項	0
⑤ スタッフの接遇に関わる事項	4
⑥ その他	4
合計	14



社会福祉法人聖家族会のホームページはこちらの QR コードからご覧いただけます。
<https://misakae.or.jp/>